

れいわ ねんど だい かいこ うふ した ぶん かきょうせいすいしんいいんかいぎろく
令和6年度 第2回甲府市多文化共生推進委員会会議録

- 1 開催日時 令和6年11月26日(火) 午前10時～午前11時
- 2 開催場所 本庁舎8階 会議室8-1
- 3 出席者 委員10名
秋田辰巳委員長、萩原孝恵委員、池田充裕委員、三井さや花委員、
花田智委員、畠晴夫委員、内藤裕利委員、高岸貢委員、徐芸委員、
赤池ミツシェリ委員
- 4 欠席者 伊藤孝恵委員
- 5 議事
事 (1) 前回の委員会での意見について
(2) 令和6年度 多文化共生推進事業実績について
(3) (仮称) 甲府市多文化共生推進計画2026の策定について
(4) その他
- 6 議事進行
(1) 前回会議の意見について

【事務局】

前回の委員会でいただいたご意見について、報告いたします。資料1をご覧ください。

一つ目は、「留学生のボランティア活動への参加を促進するべき」というご意見についてです。

こちらは、国際交流課より回答させていただきます。今年度市内4大学の留学生から、ボランティアスタッフを募集し、本市のお祭り「小江戸甲府の夏祭り」や「甲府大好きまつり」での出展を行いました。子ども向けの外国の遊びブースや、中国成都市との友好都市締結40周年を記念して四川風の水餃子を振舞う屋台の出展を通して市民の方と触れ合い、留学生と地域住民の相互理解へ繋げることができました。今後もさらに、市のイベントでの出展など、地域の方と触れ合いながら、留学生が活躍できる場を提供していきたいと考えます。

二つ目は、「外国人の氏名の読み方について、外国語の発音は難しいとは思うが、本国の発音で呼んだ方がいいのではないか。」というご意見についてです。

こちらも、同じく国際交流課より回答させていただきます。本課では、ボランティアスタッフとしてイベントに参加していただく留学生にカタカナの名札を作成します。その際、留学生ご本人に確認をしてどのような表記がいいのか希望を聞きます。特に中国国籍の方は中国語の発音か、または日本語の発音か悩むところですが、ほとんどの方が「日本語の漢字の発音」を選択されます。その理由としては中国語の発音は海外の人に難しいため、正しく読んでもらえないことが多い、また覚えにくいという意見でした。本来ならば本国の発音でお呼びするのが一番良いかと思いますが、できる限り、ご本人の希望に合わせるなどして対応していきたいと考えます。事前に確認ができない場合、最初は日本語読みで呼びかけ、どうお呼びすればよいか希望をうかがうといった習慣が広がるようになればいいなと思います。

三つ目は、「各自治会の外国人人口のデータについて知りたい」というご意見についてです。

こちらは市民課に確認をいたしましたが、住民票より予想して数を出すことはできるが、特定の地域での情報になると個人が特定されてしまう恐れがあるため難しく、また一人で複数の自治会に加入していることもあり正確な人数を把握することができないとのことでした。個人が特定されてしまわない範囲であれば、その用途も考慮しながら公表できるか検討させていただくことは可能かと思われます。

四つ目は、「ベトナム国籍住民の増加が著しい中で、ベトナム国籍のお子さまや市民への対応について実施していることや実施予定のことはあるか。」というご意見です。

こちらは外国人相談窓口がある市民課と子どもの教育支援を担当する学事課及び学校教育課に確認をいたしました。

市民課では現在英語・中国語・韓国語の言語対応可能な外国人相談職員がそれぞれ一名ずつおります。ベトナム国籍の方の割合が大きいものの、現状ではベトナムの方は就労ビザで滞在している方が多く、市役所で手続きをする際は勤務先の日本語が話せる方と來るため、現状ではベトナム語対応の職員を置いていないとのことでした。

子どもの教育に関しては、小学校一年生になる前の年の10月に入学

通知を送っており、ベトナム国籍のご家庭にはベトナム語が併記されたこちらの3点セットをお送りしています。ベトナムに限らず、外国人は通学するかしないかは自由であるため、このような案内をお送りしております。また、ベトナム国籍児童生徒の増加に伴い、教育現場においてベトナム語対応可能な母語支援員を昨年度までは1人だったところ3人へ増員いたしました。

ベトナム人の方々は今後も増えると見込まれるため、いただいたご意見を参考にさせていただき、担当部局にフィードバックしていきたいと考えております。

五つ目は、「国籍ごとの年少人口・生産年連人口・老人人口の分布が知りたい。」
というご意見についてです。

住民票よりデータ抽出可能なため、国籍別でどの年代がどのように増加しているのか見ることができます。本市に住民票がある外国人住民の上位10か国のデータを出しました。特に、中国・ベトナム・ペルー・米国は生産年齢人口の増加が著しいことが分かり、国籍別にどの世代が増加傾向にあるかを把握することで、今後の対策にも活用することができると考えます。

以上が「前回の委員会での意見について」です。説明を終わります。

【委員長】

事務局からの説明に関しまして、ご意見・ご質問ありますでしょうか。

【委員】

学生がボランティアとして活躍する協働推進課のボランティア事業について
枠を広げて留学生も参加できるでしょうか。他部署との横のつながりの連携についてどうお考えですか。

【事務局】

行政の弱いところであると認識しています。昨年度から留学生が活躍してくれる場を広げるように取り組みをしており、留学生ネットワークで情報発信をしております。協働推進課のやっているボランティアについても今後共有できればと思います。

【委員長】

国際交流課で、留学生のネットワークの構築をしてくれています。まずは、災害時に情報共有と、留学生がどんなことが起きているか知っていくことが大事だと考えます。命を守ることの発信からしていくことでこれから情報が増えやしていければ良いと思います。

(2) 令和6年9月末実績について

令和6年9月末までの実績についてご説明いたします。

それぞれ担当課にて、前年度と同規模で事業を実施しています。

少し補足でご説明させていただきます。

日本人と同じように重要な情報が届くよう『情報提供』という点で多言語での対応をしているところが多く、調査票のとおり、外国人住民が集まる機会を利用して広報活動やチラシ配布を行っております。特に、11ページ目一番上の本市が主催の日本語教室は、毎週水曜日と第2・第4土曜日に開催しており、効果的な周知の場として活用されています。下半期も引き続き、本当に必要としている方にダイレクトに情報が届くよう努めていきたいと考えます。

また、日本語教室は市内の大学や高校の学生が見学するなど、日本人が多文化共生について体験し、考えることができる場にもなっています。外国人住民へのサポートに注目しがちですが、受け入れる側の多文化共生に対する考え方を整えることも必要になると思います。

令和6年9月末までの実績につきましては、以上であります。

次に最新の国籍別人員調査票と在留資格別人員調査票の説明をさせていただきます。

「国籍別人員調査票」は、甲府市の市民課で集計しているもので、今年の10月31日時点の数字となります。各国の人員の多い順に列記しております。各國ともに増加傾向となります。特に、ベトナム、インドネシア、ネパール国籍の方が多く増えています。

「在留資格別人員調査表」をご覧ください。この集計も10月31日時点ですが、在留資格別に表しているものになります。特に、留学生は年々増えてお

がつまつじてん にんちか そうか しりょう いろ
り、10月末時点で2000人近くまで増加しています。また、資料に色がついて
ぎのう ぎのうじっしゅうおよ とくていぎのう ざいりゅうしかく かいこくじん そうかけいこう
います、技能、技能実習及び特定技能の在留資格の外国人も増加傾向にあり、
しゅうろうもくてき かいこくじん ふる わ
就労目的での外国人が増えていることが分かります。

いじょう じむきょく せつめい お
以上、事務局より説明を終わります。

【委員長】

じむきょく せつめい かん
事務局からの説明に関して、ご意見・ご質問ありますでしょうか。

●日本語教室について

【委員】

たぶん かきょうせい りかい ふか だいがくせい きょうしつ さんか
多文化共生について理解を深めるため、大学生も教室に参加させていただきました。
だいがくせい がいこくじん じっかん ばくすく
大学生にとって、外国人がこんなにたくさんいるんだと実感する場が少
きょうせい にほんごきょうしつ さんか だいがくせい じっかん しや ひろ
ないため、行政の日本語教室に参加することで大学生も実感して視野が広が
おも ひろ けいはつ
ると思います。これからも広く啓発していただきたいです。

【事務局】

だいがくせい しや ひろ うれ
ありがとうございます。大学生の視野が広がることにつながれば嬉しいです。

【委員長】

にほんご まな は わ ひろ
日本語を学ぶという場ではありますが、そこから和を広げられることはいいこ
りゅうがくせい かた いろいろ ひと かん よ りゅうがくせい
とです。社会には色々な人がいると感じてもらえるのが良いですね。留学生は
りゅうがくせい けいこう は ひと かか よ
留学生で固まってしまう傾向があるので、いろいろな場で人と関わると良い
おも
と思います。

【委員】

えいわだいがく たぶん かきょうせいいろん にほんごきょうしつ さんか おも
英和大学でも多文化共生論があるので、日本語教室に参加していきたいと思
がくせい ほらんていあ そうだん よ わ
います。学生からボランティアをしたいのですが、どこに相談すれば良いか分か
き ひろ しゅうち ほ ら
らないと聞かれるため広く周知して欲しいです。

【委員長】

じょうほう ほ ひと とど いみ にほんごきょうしつ さんか
情報が欲しい人に届かない意味がないですね。日本語教室に参加すること

で事業の意味や内容を理解できるため、皆さんにも参加して欲しいと思います。

(3) (仮称) 甲府市多文化共生推進計画2026 の策定について 【事務局】

皆様もご存じのとおり、外国人住民は年々増加しており、本市では多様性と包摂性がもたらす持続可能な社会の実現に向けた多文化共生のまちづくりを目的に「甲府市多文化共生推進計画2021」を策定し、推進してきました。

現計画は、2025年に最終年度を迎えることから、本課では2026年からの新たな計画の策定に向けて来年度から準備していきたいと考えております。

新たな計画であります(仮称)「甲府市多文化共生推進計画2026」につきましては、現計画の様々な施策を継続して参ります。また新たに、資料にあります、外国人住民が地域の大切な一員として尊重され、甲府を第二のふるさととして活躍できるまちづくりを目指し、日本語教室の拡充や多文化共生推進パートナーの仕組みづくりなどの施策を行っていきたいと考えております。特に日本語教室におきましては、技能実習などの就労が増えている現状と、入管法の改正に伴い創設された育成就労制度で日本語検定能力N4N5が必要とされることを踏まえ、就労や子どもとその家族など、目的やターゲットを明確にし、N4クラス以上を目指した質の高い日本語教育の推進することで、安心して生活できる多文化共生社会を実現していくとともに、就労・定住につなげていこうと考えております。

つきましては、この日本語教室や、来年度の新たな計画の策定にあたり、委員の皆様から貴重なご意見をいただき、計画の策定に活用させていただけたらと考えております。ご意見をよろしくお願ひします。

【委員長】

事務局からの説明に関して、ご意見・ご質問ありますでしょうか。

【委員】

日本語教室の拡充だけでなく、企業側の理解についてはぜひやってもらいた

いです。

【委員長】

企業の協力により、家庭が落ち着けば子どもも落ち着くので、企業への取り組みをやっていけるのはいいことですね。日本の大学への入学の目安はN2です。

【委員】

レベル分けに日本語参照枠を取り入れると、さらに新しい取り組みになるのではないか。

【委員】

現在の日本語教室は大人が対象ですが、今後は子ども対象の日本語教室をやる予定ですか。

【事務局】

今まで、一般的の方向けの日本語教室を取り組んでいたが、子どもの教室も実施する予定です。

【委員】

子ども向けの日本語教室は、見かけない取り組みです。甲府市が先人をきってやってくれれば、他の市町村もやるきっかけになると思います。

【委員】

学校の通訳をやっていますが、外国人の子どもたちにとっては、平日の勉強だけだと足りないので、土日も勉強できると良いと思います。勉強が理解できるようになると、お友達との絆が生まれたりもします。まずは、日本語の勉強から始めることが重要です。

【事務局】

子どもたちが、学校で孤立しないで溶け込めることが重要だと考えます。初めての取り組みになりますので、皆様のご協力もいただきながら実施してい

かんが
きたいと考えます。

いいん
【委員】

こんご じぎょう じんてきり そーす よてい
今後の事業の人的リソースをどうしていく予定ですか。

じむきょく
【事務局】

しよう こうちく じぎょうしゅ ほう いたく いっしょ じっし
仕様はこれから構築していきますが、事業者の方に委託して一緒になって実施
する予定です。

いいん
【委員】

だいがくせい さんか かんが だいがくせい まな つな
大学生も参加できたらいいなと考えます。大学生の学びにも繋がります。

いいん
【委員】

がいこくじん にほんご まな にほんじん あいて まな
外国人が日本語を学ぶのはもちろん、日本人も相手のことを学ばなきゃいけな
いと感じています。日本人向けの外国語教室もあったら良いと思います。

いいん
【委員】

がいこくじん たちば うれ
外国人の立場としては、あいさつだけでもしてもらえるだけでも嬉しいです。あ
とは、日本人と外国人がやさしい日本語を共通言語として皆で学ぶことも良
いのではないでしょうか。

いいんちょう
【委員長】

にほんご たんご やさ ぶん かんけつ たいせつ
やさしい日本語とは、単語を優しくするのはもちろん、文の簡潔さも大切です。
にほんじん はな もじ お ぶんしょう
日本人が話していることも文字に起こすと文章がおかしいことがあるように、
はなし みじか だいじ
話すことばは短くすることが大事です。

いいん
【委員】

にほんご ほんやく りょう にほんご
やさしい日本語は翻訳もしやすいです。AIを利用するときも、やさしい日本語
を積極的に使うべきです。

【委員】

日本語教育はもちろん大事ですが、文化の理解がお互いにできるようになることも重要です。どこの企業も人材不足で外国人労働者が増加しているが、対応が追い付いていない部分もあるかと思います。すでにいる人、受け入れる側の協力が必要なのではないでしょうか。

【委員】

実際自分の今いる団地には250人くらいの外国人がいます。今は、空き家が増えてきており、今後は大学生や外国人がさらに増えていくことを期待しています。団地では、地域の人が一丸となってお祭りを開催しており、多文化を理解する機会になっています。

【委員長】

団地はコミュニティが既にできあがっているので、色々なことを始めるきっかけになりそうです。

【委員】

外国人の特技を活かせる場が増えると良いと思います。例えば、文化協会は高齢化が進んでいるので、そこに外国人が参画するのも面白いのではないか。

【委員】

多文化理解という観点から、今は観光の内容も変わっており、日本の文化を体験することが要素として加わってきています。(例えば、ごみの分別や布団・畳を体験するなど)

【委員】

日本人も含めて、「自分の常識は他人の非常識である」ということを伝えていくたいと考えます。

【委員】

甲府市のホームページに掲示板みたいのがあればいいなと感じています。

ボランティアをしたい人とボランティアを求めている人がマッチングできるのではないかと思います。

【委員長】

そうですね。ネット社会をうまく利用して情報を共有できればいいなと感じています。参加の機会、活動の情報共有、発信するだけでなく相手の要望が拾えるようなツールがあると良いですね。

【委員】

あと、外国人でも簡単に、自分が必要としている情報が見つけられるようなホームページになると更に便利になると思います。

【委員】

市だけではなく、様々な分野の組織が協力し合って、互いの長所を活用していくことが必要になっていくのではないでしょうか。

【事務局】

多文化共生という分野におきましては、色々な組織の皆様からのご協力が必ず必要になりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

【事務局】

貴重なご意見をいただきありがとうございました。

今後につきましては、いただきましたご意見を参考にさせていただき、計画策定の準備をさせていただきます。

なお、計画の策定状況や様々な施策など改めて皆様のご意見をお尋ねしたりする機会があると思いますので、今後もよろしくお願いします。

●議事(4)その他については、今後の多文化共生推進スケジュールについて事務局より説明を行い、議事終了。